

脳出血後に視覚性運動失調を来した患者に運転支援を行った1症例

敬仁会 桔梗ヶ原病院

須田 広樹

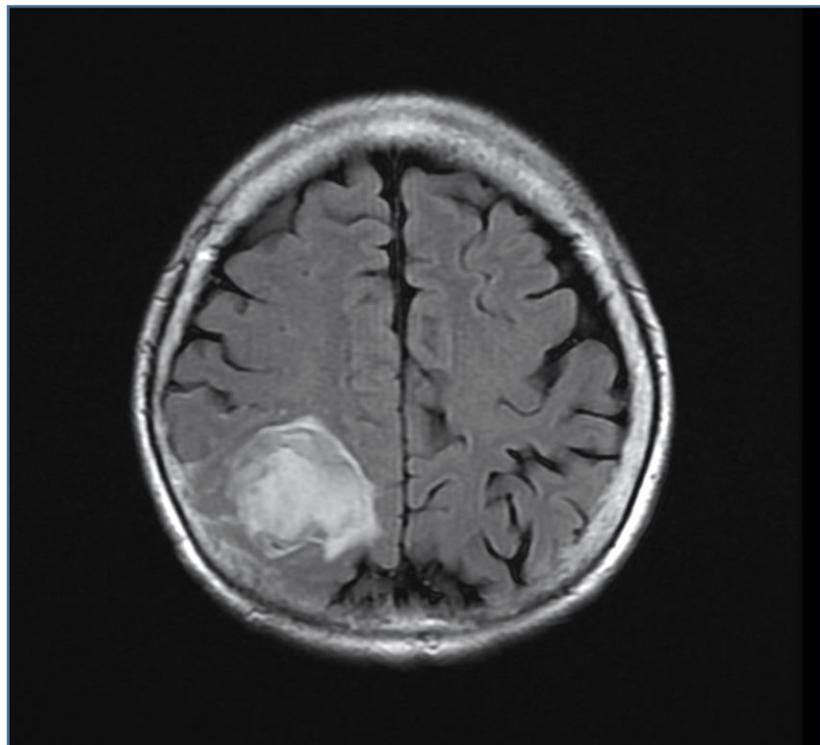
はじめに

- 今回、視覚失調を呈した患者に対して運転支援を行った。
- 実車評価を行った際に車体感覚が不良だったが、自宅でトレーニングを行った結果、改善を認め運転再開に至った症例を経験した為、報告する。

視覚失調とは

- 前島らによると「視覚制御下での物体の把握動作の障害」と述べている。また、責任病巣と反対側に症状が出現する。
- 一般には、精神性注視麻痺、視覚性注意障害と共にBalint症候群の一分症として知られてきた。
- また、Garcinらによって視覚性運動失調が独立して現れる症状であることが報告されている。

症例紹介



発症1病日目

診断名：右皮質下出血（右後頭葉出血）

年齢：60歳代

性別：女性

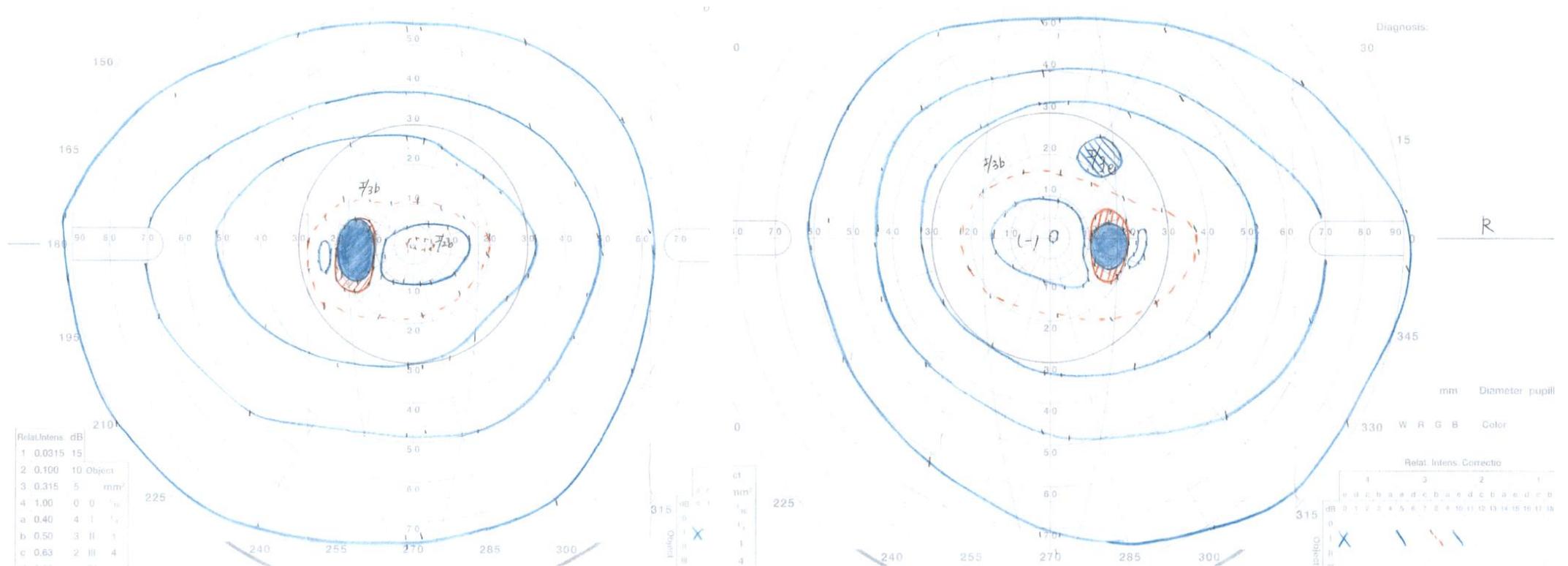
現病歴：X年Y月Z日に左下肢の違和感が出現し救急搬送され上記診断にて入院となる。その後、全身状態が安定した為、発症から29日目に当院へ転院となる。

身体機能：著明な運動麻痺無し

高次脳機能検査結果

	29病日目	166病日目
MMSE	30	30
Kohs立方体組合せテスト	69	97
BIT	145	144
TMT PartA	117	88
TMT PartB	138	144
BADS	16	19

眼科検査結果



右眼上方に暗点あり。
視野欠損、半盲認めず。

視覚失調の評価結果

①注視下での評価

- 視野内における消去減少なし。
- 左視野内におかれた鉛筆の位置を把握することが出来ない。

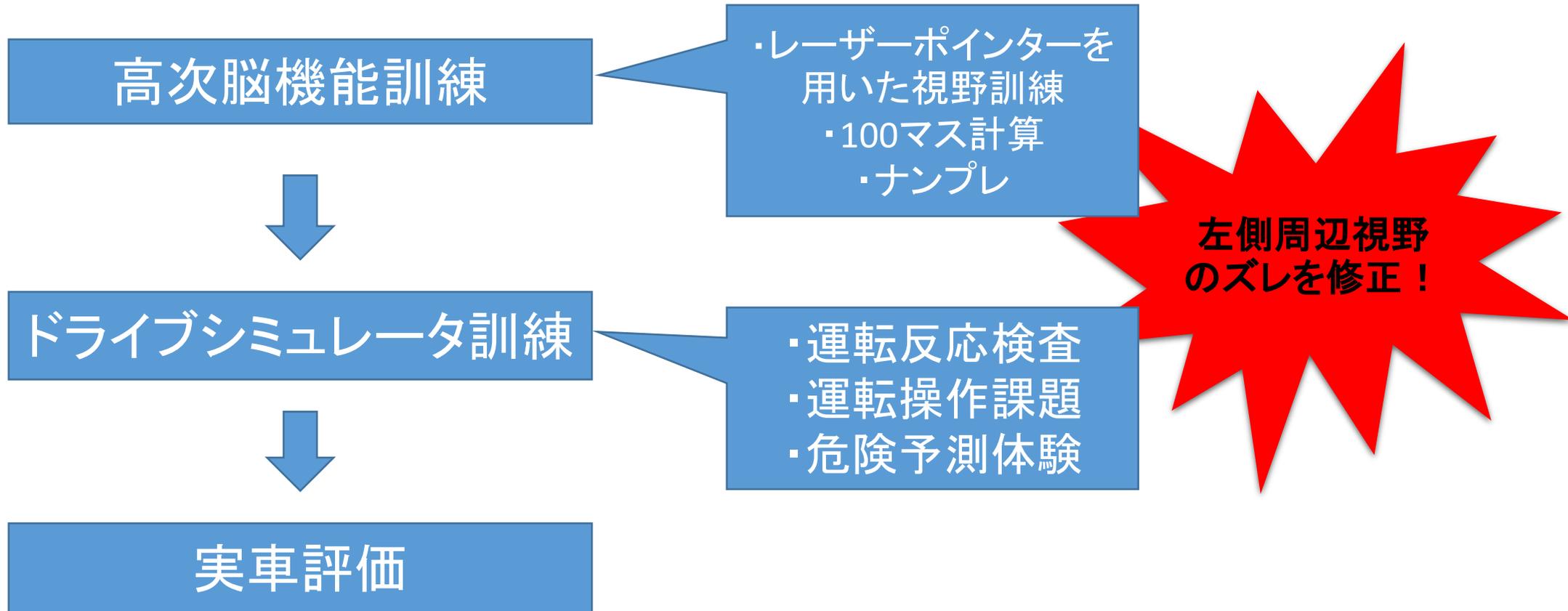
②周辺視野での評価

- 左、右手ともに左視野内において位置の把握が出来ない。



右後頭葉頭頂病変による左視野の視覚失調と推測

実車までの流れ



実車評価

- ①左側へ寄る傾向あり。
- ②左側からのバックの際に右後方の確認が不十分となる。
- ③カーブでの速度抑制が不十分



直後から運転再開は難しいとの判断となる。
ペーパードライバー講習を通じて再評価へ。



自主トレを実施

自主トレ訓練

- 訓練期間: 退院後より約1ヶ月間
- 訓練内容: 自宅の車の運転席から自車の四隅を順に注視する。
後方確認の際は、ミラーをみる



車両感覚が強化された



2回目の実車評価で問題点の改善が見られ運転再開となる

考察

- 初回の実車評価においては、視覚失調により自車の車体感覚が低下していた。また、周囲の障害物との距離感にもズレが生じていた。
- 自主トレによる反復的な確認作業により車体感覚の向上と車体周囲の障害物との距離感も改善された。
- その結果として、2回目の実車評価では、左に寄る傾向やバックの際の車体感覚が向上し、運転再開へ繋げる事が出来た。

結語

- 視覚失調を呈した症例であっても停止車両を用いた空間認識課題の実施により運転再開に至る可能性が示唆された。
- 停止車両を用いた車両感覚の改善については、リハビリの訓練プログラムとしても有効である可能性が示唆された。

参考文献

- 視覚性運動失調の臨床症候と経時的変化からみた重症度の検討。
➤ 前島伸一郎、駒井則彦、重野幸次、中井國雄 土肥、信之